

## 編集 後記

平成最後の年の瀬も押し迫り、皆様には慌ただしい日々をお過ごしのことと思います。今年は記録的な豪雪に始まり、島根県西部地震、大阪府北部地震、7月豪雨、台風21号や24号、北海道胆振東部地震と北海道大停電など、記録や記憶に残る災害が多い年でした。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、各地で対応にあられた各位のご努力とご苦労には、改めて頭が下がる思いです。

さて、第65巻第12号には原著論文3編、公衆衛生活動報告1編、資料1編が掲載されています。奇しくも公衆衛生活動報告には平成28年の熊本地震における熊本県内保健所長諸氏の活動が報告されています。「訓練を受けたり、机上で学んだりしていても、いざとなると動けないこともある。」という一文には考えさせられます。

原著論文では3編中2編が高齢者に目を向けた論文でした。うち1編は家族や仕事関係以外で世代内/世代間交流がある者は、若年層と高年層のいずれにおいても精神的健康状態が良好であったことを報告しています。因果関係の評価に踏み込んだ研究への発展が期待されます。

もう1編は大都市部在住の高齢者に孤食の頻度が高く、食品摂取の多様性が特に男性において低いことを報告しています。今後増え続ける1人暮らし高齢者への支援対策を考える上で根拠の一つになる論文と思われる。

残る1編の原著論文には研究での個人情報の取り扱いをめぐる、個人情報保護法令の課題が報告されています。公衆衛生学の研究者に限らず、個人情報を取り扱う研究者には是非一読していただきたい論文です。

資料では、産院入院中に母子完全同室であった母親では産後1か月において睡眠不足に関連した疲労感が少なかったことなど、出産後の疲労回復に向けたケアを進める上で参考になる結果が得られています。

今回も様々な視点から大変示唆に富んだ研究結果をご報告いただきました。公衆衛生活動には幅広い視点と知識が求められますが、多分野の研究者・実務家が集う本学会は、その知識と経験を共有する場として最適です。これからも活発なご投稿をお待ちしています。

それでは皆様のますますのご発展とご活躍を祈念しつつ、今年最後の編集後記を締めさせていただきます。どうぞ良いお年をお迎え下さい。(田邊直仁)

## 次号予告 (第66巻・第1号)

### 原 著

- 家庭と学校における応急処置経験がもたらす教育的効果について：大学生への調査結果から  
 ……………関由起子，他
- 次子出産を希望しないことと早期産との関連：健やか親子21最終評価より……………上原里程，他
- 中堅期以降の自治体保健師の能力の現状とその関連要因：「標準的なキャリアラダー」を用いた調査から……………堀井聡子，他
- 外国人介護職者における就労意向・バーンアウトおよびコミュニケーション能力の特徴に関する研究……………亀山純子，他